

令和元年度文京区アカデミー推進協議会第1回分科会(スポーツ)概要記録

日 時	令和元年11月11日(月) 18:30～20:30
会 場	文京シビックセンターホール5階 区民会議室A
出 席 委 員	座長 青木 和浩 (順天堂大学教授) 井上 充代 堀 正孝 山内 豊
欠 席 委 員	酒井 宏
事 務 局	川崎スポーツ振興課長 日比谷オリンピック・パラリンピック推進担当課長 小菅スポーツ振興係長 青木施設等担当主査 池田オリンピック・パラリンピック調整担当主査 鈴木オリンピック・パラリンピック事業担当主査
資 料	資料1 令和元年度 スポーツ分野事業調査結果A 資料2 令和元年度 スポーツ分野事業調査結果B 資料3 平成30年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価について 資料4 区民向け調査における分野別目標の重要度と満足度 資料5 平成30年度の事業に対する評価
(議事)	
1 開 会	
2 議 題	<p><u>(1) 平成30年度の事業実施状況の点検と評価について (スポーツ分野)</u></p> <p><u>①分野別目標1 スポーツを身近に感じる機会の拡充</u></p> <p>資料1と資料3に基づき、分野別目標1 スポーツを身近に感じる機会の拡充における点検と評価について説明。</p> <p>◎「初心者向けスポーツ教室」のアーチェリー教室には参加したことがある。とても楽しい教室であったが、器具を揃えたり、慣れていない競技種目であることから恐れがあったりと、継続するにはハードルが高かった。</p> <p>◎オリパラに関するイベントについては、文化と融合した興味深い企画が多くみられる。</p> <p>◎初めて事業に参加する人に向けたPRと、活動を継続する人に向けたスポーツの楽しみ方のPRが必要ではないか。区民が少しでもスポーツに触れられる機会が拡充していくと良い。</p> <p>◎「BUNKYO2020「文の京めぐり」」について、配布している手帳はどのくらい活用されているのか。手帳は情報が更新されないため、新たな情報を伝えるためのフォローが必要ではないか。</p> <p>◎スポーツに関する情報が区報に掲載されているが、文化や福祉など、もう少し分野別に整理されているとわかりやすい。また、継続イベントか単発イベントかがわかるようになっていると、継続イベントについては次回行ってみる意識が生まれるかもしれないので、その点も整理されていると良いだろう。</p> <p>◎「初心者向けスポーツ教室」については、児童・生徒が参加しやすいように教育委員会と調整の上、開催日程などを設定できると参加者が多くなるのではないか。</p>
◎委員意見	
◆事務局説明	

「ドイツ料理の日～ホストタウン給食キャラバン～」について、全ての学校でメニューは同じなのか。

◆基本的な献立は同じにしているが、栄養士によって工夫が凝らせるように配慮しているため、小中学校によってやや異なるメニューが出されている。また、意識調査も行って、その結果を参考に献立を検討している。本事業は来年度も継続する予定だが、その次の年度以降は未定である。

◆アーチェリー教室に参加したきっかけは何か。

◎アーチェリーの経験はなかったが、興味深かったため区報を見て参加した。今後、区としては、他区で実施している効果的な取組を展開することを重視するのか、文京区ならではの取組に比重を置くのか、どちらになるのか。

◆区にはグラウンドは少ないが、東京ドームやサッカー協会などの資源があり、観るスポーツに関するポテンシャルが豊富にある。

◎他の区でできることを文京区でもできないと区民からクレームがあるのでバランスが難しい。区としてどこまで区民に踏み込むかを検討する際に、きっかけをつくる度合いが重要で、初心者向けスポーツ教室などでは、もう少しフォローしてもらえると良かった。

◆「初心者向けスポーツ教室」について、教室終了以降についても継続していく方策を検討していきたい。難易度の段階を設けて、実施者のモチベーションを保つ仕組みが必要だろう。

◆集中した期間で単発的に続けるのではなく、緩やかに継続していただくことも重要ではないか。また、「地域のスポーツ団体等との連携による事業展開」について、37事業のほとんどが親子で参加できるイベントとなっている。サッカーやバスケットボール、フットサルなどのオリンピック・パラリンピックの競技種目が体験できるイベントを行っており、積極的に機会を設けている。企業スポーツチームは、そのチームが地域に貢献したいと思っているかどうかによって関わり方が変わってくる。

◎分野別目標1「スポーツを身近に感じる機会の拡充」については、おおむね良好に取り組んできているのではないかと予想するため、関連団体と連携しながら充実させていくことが重要と考えられる。また、「地域のスポーツ団体等との連携による事業展開」の37事業のうち、ほとんどが親子向けのものということだが、あまり周知されていないように考える。幅広い年代層に向けた情報発信方法の検討が求められる。

②分野別目標2 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進

資料1と資料3に基づき、分野別目標2 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進における点検と評価について説明。

◎初めて取り組んでみたいスポーツがあった時に、どこに問い合わせれば良いのかわからない。区民がスポーツに関する相談ができる窓口を設置すると良いのでは

ないか。相談窓口の一本化を実現できないか。

◎「地域スポーツ団体の支援・育成」について、依頼を受ける競技種目に偏りがみられる。最近ではボッチャが多い。依頼が少ない競技種目についても活躍の場を設けていく必要があるのではないか。

◎「オリンピック・パラリンピック気運醸成補助金」について、収支決算書の提出が必要など、手続きが煩雑なためにハードルが高くなっており、申請件数が伸びないのではないか。もう少し簡単に手続き等できると件数が増えていくのではないか。

◎「地域スポーツ団体の支援・育成」、「ジュニア・アスリート育成事業」、「障害者スポーツ指導員資格取得の支援」について、現状維持や縮小などの今後の方向性はどのような理由で決めているのか。また、「障害者スポーツ指導員資格取得の支援」については、どのくらいの人数に資格取得してほしいと考えているのか。

◆なるべく多くの人に取得してほしいと考えているが、1時間も欠席できないなど日程的に厳しい講座のため取得が困難と考えられる。

◎「ジュニア・アスリート育成事業」については、区内に陸上競技場がないため、区外へ活動しに行かなければならないということが弊害と考えられる。それから、時期によっては受験勉強に励む児童が多く、スポーツに関するイベントの参加率が低くなる。

◆「オリンピック・パラリンピック気運醸成補助金」について、事務的に煩雑な部分は認識している。ただ、区から公金を支出するとなると、必要な手続きとも考えている。多少、手間をかけてしまうのは仕方ないかと考えている。今年度で終わる事業のため、今の段階では継続して広報を強化して支出を増やす取組を行っていきたいと考えている。

◆ボッチャ体験のイベントを開催した時に、前向きな意見を聞くことが多かったので、来年の東京2020大会の開催に関わらず、引き続き実施していくことができると良いと考えている。

◆分野別目標2は分野別目標1よりも難しい目標と考えている。例えば、「アウトドアスポーツ事業」には参加者が多くなっている。コース設定等で参加者の多さが変わってきていると感じているので、参加者を多く集める工夫を凝らしていく必要があると考えている。

◆「障害者スポーツ施設の利用促進事業」について、障害者が一人で気軽に行くことができることをねらって創出した事業だが、区内の施設利用につながらない点が課題となっている。「障害者スポーツ指導員資格取得の支援」で資格を持った人が協力してくれて、マッチングが図れると利用者がのびるのではないか。

◆東京2020大会後でも、どこまで障害者スポーツに関する事業を残していけるのかということが悩ましい。楽しみながら誰もがスポーツに親しめる取組を目指していきたい。分野別目標にある通り、オリパラを契機にスポーツに親しめる機会を残していけるかどうかは課題となってくるだろう。

◎オリパラのことは横断的な施策であるため、スポーツの分科会のみでは結論を出すことはできないが、分野としてはスポーツが中心になると考えられるので、今後、議論を深めていく必要があるだろう。

	<p>また、分野別目標2をみると、「どこでも」とあるが、どこを指しているのか。どこでもと言いながら、スポーツ施設でないとならないという制限がかかってしまっているかもしれない。「誰もが」というのも、区民が区外の人を連れてきて良いことにするなど、少し柔軟に考えても良いのではないか。</p> <p>◎気軽に楽しめる雰囲気づくりと、情報発信の工夫がとても重要と考える。</p> <p>◎「個人利用のためのスポーツ施設の開放と指導員によるアドバイス」について、プールに入場する際に、区外の人にも利用させてあげると広がるのではないか。</p> <p>◆試験的にお盆の期間に同伴者3名まで区外の人でも利用できるように仕組みを整えた。周知期間が短かったため、多くの利用があったわけではないが、一定の人数が利用したと聞いている。</p> <p>(2)その他 特になし</p>
3 閉 会	<p>今回は12月2日(月)で、本日配付した資料2～4は持参していただきたい。</p>